

令和4年度第2回川崎市宮前市民館専門部会会議録（要旨）

日 時 令和4年 9月 21日（水） 10:00～12:00
会 場 宮前市民館 第4会議室
出席者 委 員 ・渡辺 美代子（宮前区文化協会 会計）
・山本 良子（宮前第4地区民生委員児童委員協議会 会長）
・山本 太三雄（菅生分館利用者懇談会）
・高久 實（宮前区全町内・自治会連合会 理事）
・檜崎 光雄（市民委員）
・川西 和子（調査モデレーター・各種司会）
・當間 幸江（宮前区PTA協議会 副会長）
欠席者 ・丸尾 明彦（川崎市立西有馬小学校 校長）
事務局 宮前市民館 齊藤館長・岸本課長補佐・徳原係長
菅生分館 田添分館長

会議の成立（委員8名中7名出席）

会議の公開・傍聴人 なし

次 第

- 1 あいさつ（市民館館長）
- 2 資料確認等
- 3 議 事
 - (1) 報告事項
 - ア 宮前市民館・菅生分館の社会教育振興事業について
 - イ 宮前市民館専門部会 令和2・3年度研究報告について
 - (2) 協議事項
 - 今期の研究課題について
 - (3) その他
 - ア 第3回・第4回（宮前市民館専門部会および市民自主学級・市民自主企画事業の提案会と選考）の日程について
 - イ その他

配付資料

- 資料1 令和4・5年度 川崎市社会教育委員会議専門部会委員宮前市民館専門部会
委員名簿
- 資料2 令和4年度 宮前市民館社会教育振興事業実施状況
- 資料3 令和4年度 宮前市民館菅生分館社会教育振興事業実施状況
- 資料4 令和2・3年度 宮前市民館専門部会 研究報告書「人と人を繋ぐ市民館であるために」他

(参考)

- 宮前市民館だより 第243号(9月1日発行)
- 菅生分館だより 第172号(7月1日発行)・第173号(10月1日発行)
- 宮前市民館事業チラシ
 - 「古墳にこーふん!宮前区は古墳の王国だった! 8月」
 - 「古墳にこーふん!秋のウォーキングツアー 10月」 市民自主企画事業
 - 「夏休み子どもあそびランド2022開催案内」
 - 「夏休み子どもあそびランド2022当日案内」
多様な主体が参画する子どもあそびランド事業
 - 「広げよう!私と子どものミカタ宮前親子学級2022」 家庭・地域教育学級
 - 「Let's Enjoy Your Song~みんなであうたおう!!~」 市民自主企画事業
 - 「宮前を知って歩いて楽しもう」 市民自学級
 - 「スマホ相談会 8月」
 - 「スマホ相談会 9月」
 - 「出張スマホ相談会 10月」 現代的課題学習事業
- 菅生分館事業チラシ
 - 「我が故郷 向丘村の人・川との関わり」 市民自主学級
 - 「我が故郷 向丘村の人・川との関わり 公開講座 向丘と周辺の古代遺跡について」
市民自主学級
 - 「赤ちゃん期の今だからできること きいてみよう!やってみよう!」
家庭・地域教育学級
 - 「おしゃべりサロンすがお これからの予定」 課題別連携事業
- 生涯学習情報誌「ステージ・アップ」VOL.242号

開 会

1 あいさつ（市民館館長）

2 資料確認等

3 議 事

（1）報告事項

ア 宮前市民館の社会教育振興事業について、資料2を用いて徳原係長より説明。

菅生分館の社会教育振興事業について、資料3を用いて田添担当係長より説明。

（質疑応答）

榑崎委員

様々な内容の活動をしていて、素晴らしいと思う。対象年齢について、大まかなターゲットに絞っているのだろうか。どのような年齢層に分けて、企画を考えているのか。

徳原係長

シニアの社会参加支援事業を例にとると、記載にあるように、概ね50歳代以上をターゲットにしている。高齢者セミナーについては、70歳代近い方を対象と考えている。また、家庭・地域教育学級では、第1子を持つ保護者を対象としている。

市民自主企画事業でも親子対象のものなどあるが、講座ごとの内容を含め、対象を決めている。例えば、高齢者セミナーは明確に対象年齢を絞っているが、中高校生を対象としている青少年教室事業は年齢を絞りすぎないことで、以前、夏休み子どもあそびランドのサポーターをしていた高校生が、社会人となり、継続して参加してくれている。

榑崎委員

川崎市の中で、宮前区の年齢分布はどのような特徴があるのだろうか。

齊藤館長

大まかに言うと、高齢者と若い世代が多い地域ということが宮前区の特徴である。各事業の実施については、それぞれの世代に、できるだけ均等に実施できるように配慮している。

川西部会長

今まで、宮前区の事業は、宮前区の対象年齢の大体の分布割合に沿って、高齢者と未就学児（子育て関連）の2方向を軸とし、加えて全方位の市民に向けて、年齢制限をかけない事業を実施してきたと思う。今年度、中高校生にフォーカスした青少年教室事業が、市民館や菅生分館で立ち上がったことが良かったのではないだろうか。重点的に実施する動きはあったのか。

徳原係長

全市的に、教育委員会で、新たなターゲットを対象とした事業を新規に行うことになった。青少年教室事業や高齢者セミナーなど、今までとは少し違う世代にも市民館に来てもらい、地域のことを知るきっかけや参加するきっかけになった。ま

た、市民館を若い時から知ってもらい事にも繋がると思っている。

川西部会長

宮前市民館では、「みやまえ文化魂」を開催するなど、以前から青少年を育てることを熱心に取り組んできた。中高校生は地域活動と学業の両立が難しく、今は「みやまえ文化魂」は休止中だが、今回、また、青少年活動が立ち上がったことが素晴らしいと感じた。

菅生分館の青少年教室事業のPRや地域教育会議との関連はどうか。

田添係長

市政だよりやタウンニュースに掲載してPRした。タウンニュースには1面カラーで掲載してもらった。地域教育会議へは情報提供している。

川西部会長

「地域で探す『マナビ』のタネ」は15人定員の所、毎回10人以上出席しているので、効果は出ているだろう。

徳原係長

宮前市民館でも、私立・公立含めて市内の中学校・高校にチラシを撒いた。昨年度開いた、「ホールで紙飛行機を飛ばしてみよう」にボランティアでサポーターとして参加した学生には、直接声をかけた。

また、「みやまえ文化魂」に最後に参加していた学生が、「夏休み子どもあそびランド」にも毎回参加してくれており、今回の青少年教室事業にも社会人になっているが参加してくれた。参加した学生が継続してくれる形が出来上がってきていると思う。途切れないよう、継続していきたい。

川西部会長

菅生分館の青少年教室事業では、動画制作で講師も感心するようなPRができたそうだが、動画を流す予定はないか。

田添係長

作成者の許可は得ているので、使っていきたい。

川西部会長

菅生分館の市民自主学級「我が故郷 向丘村の人・川との関わり」は、定員が20名と多いが、人気の秘密があるのだろうか。

田添係長

自分たちが住んでいる地域に興味がある方が多い。また、歴史に興味がある方も多い地域だ。

川西部会長

学習相談が、現在20件ほどあるそうだが、どんな内容のものか。

田添係長

卓球の団体についての問い合わせが一番多い。他にはスマホの使い方講座についての問い合わせなどもあった。

川西部会長

地域に関心がある人が増えているのかもしれない。宮前市民館、8月の「古墳にこーふん！宮前区は古墳の王国だった！」も参加者が多い。反応はどうか。

徳原係長

「古墳にこーふん！」第1回は8月の夏休み期間だったため、オンラインで、家族で参加してくれた方も多かった。

檜崎委員

「我が故郷 向丘村の人・川との関わり」の参加者は高齢者が多いのか。

田添係長

やはり、高齢者が多い。

檜崎委員

年齢を重ねると、故郷を知りたい傾向にあると思う。

當間委員

「古墳にこーふん！」のオンライン参加はどのくらいいるのか。

徳原係長

半分以上がオンライン参加だった。

當間委員

他にも、オンラインで参加できるものはあるのか。

徳原係長

今、宮前市民館で、実際にオンラインで実施している講座は、市民自主企画事業の「古墳にこーふん！」の1講座になる。通年事業の識字学習活動もオンラインを併用している。講座の内容はコロナの状況により、対面の予定だったものをオンラインで配信していた

當間委員

オンラインだから、参加者が多かったのではないか。市民館からリアルタイム配信できる環境があるのか。

徳原係長

環境はある。講師や企画委員は市民館に来ていて、リアルタイム配信となる。

當間委員

オンラインであれば、参加しやすいと思う。

高久委員

興味深い事業も多い。市民館だよりは、コロナ禍のため、8月まで町内会自治会には回覧を回せなかった。やっと、町内会自治会に回覧物を回せるようになったが、市民館だよりに記載したQRコードは、読み込んでもホームページの詳細がでるだけだ。QRコードを読み込んで、動画配信でPRするなど、興味を引く工夫したチラシ作りができればいいと思う。

渡辺委員

高津区の中学校では、地元の先輩方が駒回しや生け花などを教える機会がある。校庭でテントを張って地元住民と交流を図ったり、クラスごとに興味があるものに取り組んだりした。宮前区では、小・中学校との文化交流の繋がりが少ないように感じる。一案として、大会議室に中学校の一クラスの半分の人数と地域の方で交流し、動画を中学校に授業の一つとして配信してみてはどうか。今、市民館に集まるのは、親子で図書館に通ったり、市民館だよりを読んだりと熱心に活動に取り組んでいる人だろう。それ以外の、市民館の活動に興味を持っていない親やその子どもたちを救うために、地域と学校がもっと連携するといい。

山本（太）委員

QRコードについて、もう一步踏み込んで、動画で講座のPRや講座後の配信をできればいい。もっと関心を広く持ってもらえると思う。

川西部会長

実際に、この会議そのものも知られていない。傍聴もできることも含め、工夫をお願いしたい。

イ 宮前市民館専門部会 令和2・3年度研究報告について

川西部会長

8月4日（木）10時から、山本副部会長、齊藤館長と3人で、宮前区長に研究報告を行った。区役所と市民館、地域が連携できるために、特に、出前事業については、区役所や地域振興課、町内会・自治会とどのように連携したら、スムーズに活動できるのか報告した。また、広報についても一元化することを区役所に取り組んでほしい、区役所の企画と市民館の企画が重なるところについては、擦り合わせて束ねて頂きたいと、提言した。非常に熱心に区長に聞いていただけたと思う。

今回配った報告書は、既に前回配ったものと同様だが、各委員の出身母体へ持ち帰りいただきたい。必要な冊数があれば、申し出て頂きたい。

（2）協議事項

今期の研究課題について

高久委員

前期の活動報告書に目を通した。自分の思っていることが、良くまとめられていた。この提言を具体的に進めることが大切ではないか。宮前市民館のホームページには「宮前市民館は社会教育法に基づき市民のみなさんの自主的な学習・文化活動を支援する生涯学習施設です。学習発表のための施設提供や、各種学級講座を開設しています。また、学習サークル情報の提供、教材・機材の貸出も行なっています。」とある。川崎市でも、市民館の本来の目的である地域における生涯学習の拠点、市民の学びを通じた出会いを促進し、より豊かな活気ある地域社会を目指す

伺っていた。しかし、市民館だよりやホームページを見ている人はどのくらいいるのだろうか。一般市民は、市民館は大ホールを持っている貸室機能のイメージだ。自分もそう思っていたが実際には違う。イベントや各種学級、講座をもう少しわかりやすく伝え、魅力ある情報発信を行うことで、新たな市民を呼ぶことに繋がり、貸室機能だけでなく、市民館を出会いや交流の拠点にすることが可能になる。市民館のイベントに行ってみよう、学級や講座を覗いてみよう、区役所の帰りに寄ってみようと、気軽に立ち寄れるようになればいいのではないか。広報活動は、情報発信が大切だ。イベントや講座の広報を整理する、団体募集の掲示板を工夫するなど、情報発信の仕方を見直すべきだと思った。

檜崎委員

デジタル化も含めPRの強化が大切だ。多くの素晴らしい企画があるのに知られていない。自分の周囲に確認したが、認識されていなかった。PRの方法を検討してみてもどうだろうか。

當間委員

前回の研究報告書を読み、様々な意見をどのように実現していくかが興味の先だった。PRは大切だが、興味を持っている対象の人にどう届けるか考えたい。大々的にPRすればいいのではなく、求めている人に届けられる方法を考えるべきではないか。ホームページも大切だが、そこへアクセスしなくてはならない。PTAでもホームページに力を入れているが、結局、紙で配った方があらゆる人に届き、必要としている人へも届くという感触もある。必要としている人に届けるためには、沢山発信するだけでなく、ターゲットを決めてどのように情報発信するかを考えた方がいいのではないか。

山本（太）委員

PDCA（Plan Do Check Action）の中のCAの部分をやっていないといけないと思う。

指定管理者になった時に引き継いで実施できているかどうかをチェックしなくてはいけないのではないか。指定管理者の選定や仕様書などから事例を研究したい。すでに指定管理を行っているアリーノなどの事例を研究し、宮前市民館も移転後の指定管理者に対し、何をしていたかなくてはいけないかを研究材料にしたい。自由に投稿できる意見箱などを置いて、まだ、吸い上げられていない人の声を募集し、最終的には、宮前区をどんな街にしたいかを研究していきたい。

渡辺委員

宮前区内の保育園幼稚園、小・中学校、高校との連携で、今まで、市民館で何が行われているか知らなかった人たちにPRするような行事を半年、1年に1度でも構わないので、開催したい。例えば、市民館で地元の高齢者と小さい子どもたちが遊んだり、語り合ったり、意見交換ができたりすると、今まで市民館を知らなかった人へ伝えられるのではないか。紙のチラシは、市民館の中だけに置かれているの

だろうか。鷺沼駅など外部には置いていないのか。

徳原係長

公的機関など、様々な場所に配架をお願いしている。

渡辺委員

そのチラシを手にしてくれる人が一部に限られていることが問題だ。例えば、LINEを利用して、一度に大勢の人に情報を送り、反応があった人と情報交換をすることを様々な団体で使い始めている。検討してみてもどうだろうか。

山本副部会長

2年間専門部会に関わり、提言できた。ただ、具体的に今後どのようなようになっていくか気になっている。報告書、「●おわりに」の部分で「関連事業やターゲットごとのひとまとまりの広報の仕方も検討し、」と記載しているので、今期は具体的に進めていくことはどうだろうか。関連団体との繋がりによって広報活動が違った形で見えてくると思う。当間委員の意見にあったように、デジタルだけではなく紙媒体の使用は、スマホやパソコンを使用していない高齢者へのアクセスとして、民生委員の立場からも考えたい。今期は、前期の発展型として、結論を引き継ぎ、次にどう繋げていくかを考えたい。

川西部会長

皆さんの意見は似ている部分が多いと思う。山本（太）委員の意見にあった、指定管理者に対する事例研究について、アリーナは事例となるだろうか。前回、職員が説明に来た際、指定管理者制度への移行するスケジュール表があったと思う。

齊藤館長

令和6年度の川崎区を皮切りに順次指定管理を導入していく予定になっている。宮前市民館は鷺沼への移転があるため、スケジュール的には一番遅く令和9年～10年の予定だ。

川西部会長

指定管理者の問題について、まだ、時間があり、前回、指定管理者の方向へ向いているが、まだ検討の必要があると説明していた。業者でも良い点悪い点を検討すると聞いている。事例は、もっと溜まっていかないと、検討が難しいのではないかな。

山本（太）委員

川崎市市民ミュージアムが令和元年に水没した問題で、指定管理者制度を取ったことも要因となっているのではないだろうか。行政も市民も、指定管理者制度は意識をもって導入しなければ問題を抱えるという認識を持つべきで、精査しなくてはいけない。パブリックコメントも内容が即していない。高津市民館も指定管理者を導入して問題があると聞いている。他にも導入している指定管理者を精査して考えなければいけないと感じている。

高久委員

山本（太）委員の意見があったが、今、市民館の本来の目的である、一般の市民に様々な講座を見て頂き、人と人とが繋がる市民館になるようにという前回からの繋がりもある。指定管理者の導入は川崎区から始まり、今後、事例が増え、実態を把握した中で検討してはと思った。

川西部会長

情報発信や情報の具体的な広め方の検討が多かったように思うが、山本（太）委員の指定管理者の問題に関する意見は他にあるか。

（一同、特に意見はなし）

川西部会長

今回、様々な意見が出たが整理したい。

市民館が様々なイベントや企画を開催したり、川崎市社会教育委員会議宮前市民館専門部会を開催したりしていることも含めて、市民へ情報が行き渡っていない。一般市民へ、どのように情報共有するかが、非常に問題になっている。情報共有するための情報発信の仕方として、・どこが・どのように・どれだけするのか、様々な方法論やデジタルの話が出たと思う。

「どこが」について、連携の問題があり、学校や幼稚園など。

「どのように」について、デジタルや紙媒体を手渡しするなど。

「どれだけ」について、量の問題になるが、一斉配信かピンポイントで渡すのかなど。

といった、意見が出ていた。山本（太）委員の意見について、個人的に指定管理の問題は興味があるが、もう少し、事例が溜まってから取り組みたい。今期は上記の意見でまとめてよろしいか。

山本（太）委員

（同意）

川西部会長

今回、各出身母体に報告書を手渡しして頂くことも方法の一つであり、少しずつ手を伸ばしていけたらと思う。手元に、「地域人材分布図」をお渡ししている。以前作成したものだが、地域にどのような人がいて、どのように動いているのかを図示している。区役所を始めとして、委員の皆さんの出身母体やその他、地域の各団体や個人が連携して、市民館からの情報をどのように発信強化し、市民と共有できるかをテーマに据えても、話し合う事は沢山あると思う。

山本（太）委員

講座の中には、社会教育とあるが、子どもたちが学校を卒業するまえに、社会教育を広めるための講座を受けた方がいい。広く社会教育の基本的な部分を知ってほしい。

川西部会長

方法論の一つだろう。講座の新設により、学校教育と社会教育を上手く繋ぐよう

にしていけるといい。

高久委員

地域教育会議は小中学生も関わっているので、情報が伝わるといい。自分が関わっている向ヶ丘小学校、平中学校には、宮前市民館の情報は回ってこなかった。子どもたちに参加してもらうためにも、情報を発信し広めることが必要だ。

檜崎委員

山本（太）委員の意見は有効だ。大学生に関わっているが、卒業前に、社会教育があることをPRすることは大切だ。

川西部会長

新成人に市民館だより配布することもいい。また、市民館だよりに、「市民館はこんな場所だ」「社会教育とは」という根本を毎回掲載してもいい。本質的な事はいつも目に触れるところに出しておくことも必要だ。

川西部会長

では、今期の研究テーマは、「市民館が市民に向けて情報共有するために、どのように情報発信するか」ということでよろしいか。

(一同同意)

限られた話し合いの中で、どのように目次立てを作っていくべきだろうか。意見が上がった中で、どこと連携するか、どのように連携するかは大きなテーマだろう。

「どこが」について、具体的には、各委員の出身母体と市民館がどのように繋がるか考えていきたい。もちろん、地域教育会議や寺子屋など、各委員が入っていないグループとの連携も考える必要がある。

「どのように」について、紙媒体かデジタルか、手渡しなどの検討が必要だ。

手渡しに関して、市民コンシェルジュの活動が相当するが、大元の考え方として、配布した「社会活動情報プラットフォーム例」がある。市民コンシェルジュでは、手渡しすることで、色々なところに散らばっている地域情報一括に平場に並べて見えるようにしている。先行して活動している市民が、情報をご紹介したり、アンケートを取ったり、マッチングしたりしている。市民コンシェルジュは現在、コロナ禍のため活動の場が制限されているが、本来なら、毎週の活動や、開催されたイベントへの出席など、見える形にもう少し手厚くするか、問題となると思う。

「どれだけ配布するか」は、ピンポイントにターゲットを決め、集中して情報を提供する方法や、HPやSNSで星が降るように常に情報を提供する方法がある。

檜崎委員

紙媒体は有効な手段の一つだが、予算を考えなくてはいけない。比べて、SN

S等で発信する方が、予算がかからずに済む。注意が必要だ。

川西部会長

どのようにするかを考える際は、メリットデメリット、また、懸念されることや支援してほしいことはまとめるべきだ。

高久委員

もう少し、集まる機会があれば、活発な意見交換ができるのではないか。会合の回数ややり方を検討すべきではないか。

川西部会長

今回で、今後、大体何を話すべきか、もう少し具体的に決まるといい。今までの例では、この中でメンバーを集めてプロジェクトを立ち上げて、そのメンバーで頻繁に会議をしたり、全員で集まる場合もワークショップ形式で意見を出したりと方法論はある。ゲストを呼ぶことも一案だ。まちづくり協議会は市内で団体やグループを育てているため情報を持っているため、市民館とリンクすることを考えてはどうか。他には、個人の活動を支援しているグループもある、行政内部からも様々な立場の人を呼んで、意見交換し可能性を探ることもいいのではないか。

高久委員

必要な時に必要な人を呼んで話を聞くことはいいと思う。

川西部会長

もう少し頻繁にできればいいが、委員の皆さんの負担も大きい。

檜崎委員

前回から間が空いてしまうと、内容が抜けてしまいがちになるので、もう少し集まりたい。大学でも若い人たちの手段をもらいたいため、平日の19時半から会議をしたりする。時間なども含め、若い世代を取り込んでいいアイデアを集めてはどうか。

渡辺委員

Z o o m会議を行ったらどうか。

川西部会長

委員の皆様は、Z o o m会議ができる環境があるか。

(一同挙手。Z o o mの環境あり)

川西部会長

この数年は、具体的な方法論を示そうと会議を進めてきた。市民コンシェルジュも、具体的な形として活動できたが、継続するのは難しいと感じている。もっと掘り下げようと方法論まで踏み込むことはとてもいいと思う。是非、具体化に向けて進めていきたい。今回は、12月を予定しているが、それまでに、予備会議を設けることは可能か。

檜崎委員

次の会議までに、別途、一部で話し合っ、ある程度まとまった状態で会議に臨んでもいいと思う。頻度を上げないと決まらないのではないか。

川西部会長

10月下旬までに、構成してアウトプットするまでを考えて持ち寄って擦り合わせてみてはどうだろうか。

當間委員

Z o o mであれば参加しやすい。

檜崎委員

Z o o mと対面合わせればいいのではないか。

齊藤館長

事務局が参加できるかは別として、委員の皆様で集まって頂くのであれば、候補日を挙げて頂き、会議室の空き状況を確認の上、確保することは可能だ。

(3) その他

岸本課長補佐

第3回宮前市民館専門部会は、12月13日(火)10時～12時第4会議室
第4回宮前市民館専門部会は、2月19日(日)13時～大会議室を予定している。

齊藤館長

現時点で第3回、第4回の日程について、ご都合が悪い委員の方はいらっしゃるか。会議が成立する定数があるため、不参加が多い場合は調整しなくてはいけない。

當間委員

第4回宮前市民館専門部会の終了予定時間を知りたい。

齊藤館長

市民自主企画事業、市民自主学級事業に向け、プレゼンテーションや選定があるため、応募数によって時間の変動はあるが、最大で17時半ごろになる。

檜崎委員

全員が参加することは難しい。会議の成立には何人必要か。

齊藤館長

半数必要だ。委員の皆様の予定に鑑みて、第3回12月13日(火)、第4回2月19日(日)で、日程を確定させていただき、後日正式な依頼をさせて頂く。

川西部会長

日程調整の結果、10月27日(木)10時～11時45分ギャラリーにて、予備会議の場を持つことを決定してよろしいか。

(一同同意)

齊藤館長

通常開催される、年度内4回の宮前市民館専門部会については、報酬が出るが、臨時開催のものについては報酬が出ないことをご了承頂きたい。

閉 会